

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	建築計画の学術体系小委員会	主 査 名：門内輝行
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>21 世紀を迎えて、建築をめぐるニーズや価値観が大きく変化していること、プロ建築家や技術者の資格に対応した教育改革・高度な実務教育の推進への要請が高まっていることなどから、今後の建築計画のあり方を展望する必要に迫られている。そこで、次の 3 点を目標とする活動を展開する。</p> <p>建築計画の学術体系に関する理念の構築 (2003 年度) 建築計画の学術分野におけるフレームの再編 (2004 年度) 建築計画における研究方法の体系化 (2004 年度)</p>	
委員構成 (委員名(所属))	門内輝行(主査・早稲田大学) 小林秀樹(幹事・千葉大学) 在塚礼子(埼玉大学)、上野 淳(東京都立大学) 小野田泰明(東北大学) 西出和彦(東京大学) 松村秀一(東京大学) 積田 洋(東京電機大学) 吉村英祐(大阪大学) 大野隆造(東京工業大学) 篠崎道彦(芝浦工業大学) 糸長浩司(日本大学)	
設置 WG (WG 名:目的)	なし	
2003 年度予算	66,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年 7 月 1 日 (7 人) 9 月 29 日 (7 人) 11 月 14 日 (2 人) 2004 年 3 月 15 日 (8 人)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>(1) 建築計画の学術体系に関する理念の構築 近代化・工業化・都市化・国際化等の進展に伴い、建築のあり方も大きく変わりつつある今日、建築計画には、建築のプログラムを構築し、生活の質を高める建築を創り出す役割が期待されている。しかし実際には、研究と実践の乖離、学問の細分化が進み、その社会的な影響力が低下している。建築計画の学術体系を再構築し、建築計画を活性化することが、必須かつ緊急の課題となっている。そこで、建築計画の学術体系の理念について活発な議論を行い、建築計画研究における問題の所在を明らかにした。</p> <p>(2) 2004 年度日本建築学会大会建築計画部門研究協議会の企画 上記の成果に基づき、「建築計画の学術体系のあり方を問う フレームワークの再編成に向けて」と題する研究協議会の企画を立案し、実施が認められた。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>建築計画分野の現状について、建築計画の各分野の研究者がどのような問題意識を抱いているかを明らかにし、今後の方向性についておおよそのイメージを共有することができた。その意味で、当初の活動計画の については、概ね達成できたと考える。具体的な内容については、研究協議会開催を軸に、2004 年度に展開を図ることになる。</p>
その他評価すべき事項	メールによる審議も併用し、委員会活動を補完する努力をした。